

会 議 録

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	福祉課
会議名 (審議会等名)	嬉野市避難行動支援者連絡会議		
開催日時	令和2年2月13日(木) 13:30~15:00		
開催場所	嬉野市役所 塩田庁舎 3-1会議室		
傍聴の可否	○可	・ 不可	・ 一部不可
	傍聴者数	0 人	
傍聴不可・一部不可 の場合はその理由			
出席者	委員	坂口典子委員、古河タカ子委員、諸岡博子委員、中山逸男委員、福田邦治委員、末永忠典委員、一ノ瀬毅委員、國政幸二郎委員、辻田正信委員、樋口健委員、谷口親房委員、副市長、行政経営部長、市民福祉部長	
	事務局	福祉課：課長、副課長	
	その他	総務・防災課：課長、副課長	
会議の議題	別紙のとおり		
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和元年度 嬉野市地域防災計画【抜粋】 ・ 避難行動要支援者数等 ・ 要配慮者のための防災行動マニュアル(案) 		
審議等の内容	別紙のとおり		

審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	福祉課
議 題	1 避難行動要支援者名簿の更新状況・個別計画の策定状況について 2 「要配慮者のための防災行動マニュアル(案)」について		
内 容	資料を基に、議題についての協議を行った。		
審議経過	事務局 委員長	委員長・副委員長 選任 あいさつ	
	事務局	協議事項 1. 避難行動要支援者名簿の更新状況・個別計画の策定状況について	
	委員長	資料2～4を基に R1年度避難行動要支援者数、同意者数、個別計画策定状況、避難行動要支援者名簿の配布先についての報告 避難行動要支援者の内訳を教えてください。例えば要介護認定を受けている方の数など。	
	事務局	令和2年2月5日現在、要介護認定を受けている方が809名、身体・療育・精神手帳のみを所持されている方が298名、難病患者の方が2名、上記以外で支援の必要を認めた者が2名、計1,111名となっている。	
	委員	今年1月の個別計画書配布により資料2の策定者348名に新たに75名の策定者が加わった。その結果、策定者が423名になり配布してよかったと思う。	
	委員長	要支援者数そのものの数は増えているのか。	
	事務局	年に一回の要介護認定の更新で増えることがあるが、施設入所、長期入院等で数が減ることもあるのでそこまで大きい増減はない。	
	委員	要支援者の急な入院や介護度の変化はどのように把握しているのか。	
	事務局	地域に詳しい民生委員、区長から情報提供していただいている。	
	委員	資料3の登録者名簿は誰に配布するのか確認したい。	
	事務局	行政嘱託員、民生委員、鹿島警察署、嬉野消防署、社会福祉協議会に登録者名簿と個別計画書の写しを配布している。	
	委員長	急な災害時にいつの時点でどのようにして同意していない方の情報	

		を支援者に渡すかを考えておくべき。
委員長 事務局		今まで緊急時に同意されていない方の情報を出したことはあるのか。提供したことがない。要請があったらすぐに情報が出せるように塩田と嬉野で準備をしておかないといけないと考える。
委員長 委員長 委員		行政から消防の方に渡していくなど渡す方法も考える必要がある。避難指示を全域に出しても避難者が少なかったりする。現実問題として、避難指示を受けた全員の方が避難すると避難所が足りない。支援が必要な方に対して優先的に安全対策していかなければいけない。
委員長 委員 委員		避難指示もある程度範囲を限定した出し方を決めておくべき。避難指示を出す際に道路状況も教えてほしい。ここは大丈夫という伝え方よりここは危ないという伝え方をした方がよい。
委員		消防に冠水の情報などは入ってくる。情報が入った時に防災行政無線で冠水状況などを伝えていきたい。
委員長		あらかじめ地区の方が避難経路や危ない場所を把握しておく。そのためには訓練やハザードマップの活用が必要になってくる。
委員		要支援者の数は日々変わっていく。きちんと把握しておかなければならない。
委員		唐津市は防災士会を立ち上げて訓練等を行っている。できれば嬉野市でも防災士会を立ち上げていければと思っている。
委員		消防団 OB にも有資格者がいるので、防災士会のような組織をつくりたいが、まずは地域の方に正しい知識を教える場を設けてほしい。
委員		区だけのコミュニティで話し合いはできていても市全体の組織としての活動はできていない。災害時に組織として行動できるような体制を作るべき。
委員 委員		防災士は地域の方に具体的に何を教えたいのか。個々の防災意識が高くないと、地域全体の防災につながらない。まずは防災に対する個人の意識を高めるような話をしたい。
		防災組織を作れば、県から委託された防災士、地域防災リーダーといった方達に依頼をして講義を開くことができ地域の防災意識を高めることができる。
委員長		防災士の資格を持っている人達を市で把握して防災組織を作り、地域コミュニティで講義を開いたりしてほしい。
委員		地震が起きた場合に危険なので、寝室の家具を確認し、危険な家具は留め具をする。部屋から避難できないと危険なので意識するべき。
委員		防災士は、災害前にアドバイスをするのが一番の仕事。ただ、話す機会がない。知識を生かす道がない。
委員		防災について文章で伝えようとしても中々読んでもらえない。いかに印象的に伝えるか工夫が必要・

委員	マニュアルに記載の避難場所について、昨年の豪雨の際、どのくらいの方が避難所を利用されたのか、またその中で要介護認定を受けた人はどのくらいいたのか。
事務局	昨年7月の豪雨の際、嬉野市内全域に避難指示を出した。嬉野市全体で約460名の方が避難所を利用された。他の市町や公民館に自主避難された方は含まれていない。要介護認定を受けた方等の内訳については把握できていない。
委員長	以前よりは避難者が増えた印象。
委員	地区の中で優先的に支援が必要な方に対して二重三重で人員を割り当てておかないといけない。
委員長	個別計画は本来そういう目的のために作られたものだが、そこまで至っていないのが現実で、どうしても地域の方の協力が必要。
委員	マニュアルの53ページにある福祉避難所について、ここに避難すれば安心という場所を作るために今回新たに老人福祉センターを福祉避難所に加えた。元々指定避難所でもあるので、いざという時に支援が必要な方がいらっしゃる場合は老人福祉センターへの避難をお願いしたい。ぜひ周知をお願いしたい。
委員	民生委員の方には全員報告済みです。
事務局	2.「要配慮者のための防災行動マニュアル(案)」について このマニュアルにつきましてはこの度総務防災課の方で案を作成していただいております。このマニュアルは、要配慮者とその家族の方々が、災害に備え、災害が発生したときに適切な避難行動をとることができるよう、日ごろからの備えと対応をまとめたものです。また、地域の方に、要配慮者の特性を理解していただき、地域や避難所等での支援にご活用いただくことを目的に作成しております。この内容について皆様にご協議お願いしたいと思います。よろしく申し上げます。
委員	ヘルプマークをもっと周知していくべき。まだ知られてない。ヘルプマークはいざという時に配慮してもらえる。
委員	個別計画に同意していない方でもヘルプマークだけはしてもらえるようにしてほしい。緊急の時にヘルプマークを首から下げているだけで助けてもらえる。
委員	ヘルプマークは手帳交付の際に交付されるのか。
事務局	手帳といっしょには交付していない。希望されたら配布している。
委員	妊婦さんなどにも幅広く使ってもらっている。ヘルプマークを利用してもらえるような話しかけも重要。
事務局	手帳交付の際にヘルプマークの紹介も併せて行っている。
委員	ヘルプマークはどこへ行き、どのような手続きで交付されるのか。
事務局	嬉野庁舎では福祉課、塩田庁舎では子育て未来課で手続きできる。

委員	外国人の方、言語障がいがある方に対して指さし会話が必要になると思う。
委員	外国人の方は嬉野市に約180名いるので外国人の方への対応は必要になってくる。スマホを利用して筆談や翻訳が可能。
委員	嬉野に住まれている外国人の方で日本語が上手な方に災害時の協力要請をした方が早いのではないかと。
委員	カフェこくさいじん等の団体とネットワークを広げておくことでいざという時に対応ができる。
委員	51ページに記載の指定避難所ではなく、公民館に避難をされる方がいる。公民館に毛布等の備品はあるのか。
委員長	毛布は使った後の管理がされていないことが多かったので、公民館に備品として置いていない。ただ、備蓄はあるので避難された時に配布できる。あくまでも自主避難のための公民館という位置づけ。
委員	以前、五町田小が避難所として利用された時、体育館の前周辺に車を停めてしまい、入れなくなった方がいた。お年寄りが雨の中傘をさして歩くのは大変。後から聞いた話だと体育館の中は空いていたらしい。駐車管理を行う必要がある。
委員	避難所が開設されたら長期滞在になる可能性もあるので、避難者の個人情報を集約し、管理するという組織づくりをしなければいけない。
委員	13ページに防災行政無線がない人への音声案内サービスとあるが、これはどういったものか。
事務局	防災行政無線音声案内サービスの電話番号にかけると直近の放送と同じ内容のものを聞くことができる。
委員	防災行政無線は聞こえづらい時がある。この案内はいつでも聞くことができるのか。
事務局	いつでも聞くことができる。直近の放送が聞けるので時報等が流れる場合もある。流し続けていると過去の放送をさかのぼることができる。
委員	防災行政無線に加入していない人や、スイッチを切っている人がいる。いざという時のためにスイッチは常にいれておいてもらいたい。
委員	このマニュアルのタイトルを「要配慮者・支援者のための防災行動マニュアル(案)」にしたらどうか。その方が多くの人に見てもらえる。
委員	マニュアルの最初にある要配慮者の説明が分かりにくい。誰が見てもわかるような言葉を使った方がよい。
委員	このマニュアルの配布時期はいつごろを予定しているのか。
事務局	現時点では決まっていない。今年の梅雨前には出したい。
委員	この会議は梅雨前に開いた方がいいのではないかと。年度の計画も立てやすいので梅雨前の5月がよい。

	委員 事務局	マニュアルは誰に配布するのか。 はっきり決まっておらず、検討中です。
その他	嬉野市避難行動支援者連絡会議委員の2年間の任期が来月末で切れることとなりますので、来年度4月以降の就任のお願いを3月に文書で差し上げたいと思います。現在の委員の方に再任ということでお願いしたいと考えていますので、ぜひよろしくをお願いします。	